

## 2022年度 学校評価報告書

### 1. 第IV期中期経営戦略における本園のビジョン

- 園児一人ひとりの成長を確かな形で保護者が実感することができる、園児の主体性を伸ばす教育保育を実践するこども園

### 2. 第IV期中期経営戦略の中期計画に係る 2022年度の成果

#### 1) 園児の主体性を育む教育保育の展開

園児の主体性を育む教育保育を展開するために、本園では保育環境の整備・充実およびカリキュラムの改編に取り組んでいる。

まず、保育環境の整備・充実については、2023年度から着手する園庭の大規模改修に向けて、他園の視察や園庭改革プロジェクトミーティングの定期的な実施、教職員全員での数度にわたる意見交換を経て、基本計画の策定に至った。また、各保育室においては、それぞれのクラスの園児の興味や関心に沿った遊びを同時並行で展開する「コーナー保育」に取り組み、遊び込める環境構成を常に提供することができた。加えて、園児の遊びの発展に合わせてコーナー保育の内容の更新を随時行うことができた。

次にカリキュラムについては、日常保育および行事のいずれにおいても、子ども主体であることを前提として、子どものどんな育ちに寄与するかという視点で検証を行ったうえで、子どもが1日の過ごし方すべてを決める日の設定等、2023年度以降の具体的な取り組みについて方向付けを行った。また、子どもたちの思いや意見を尊重し活動に採り入れる機会を可能な限り多く設け主体性の伸長を図った。

#### 2) 積極的な情報発信の推進

積極的な情報発信により子どもの育ちや園の取り組みを広く知っていただくために、本園においては在園児保護者を対象とした教育保育の可視化および未就園児保護者とのコンタクト強化に取り組んでいる。

教育保育の可視化および保護者との共有については、学年の保育のようすを写真とテキストでまとめたドキュメンテーションを月に2回、個人の成長過程を写真とテキストで記録したポートフォリオを月に1回と、目標を上回る更新頻度で運用し、目に見える形での情報提供を質・量ともに充実させることができた。

また、未就園児保護者層へのコンタクト強化については、最も接触機会の多いホームページを継続的にリニューアルするとともに、動画コンテンツを追加するなど発信力の向上を図った。あわせて、未就園児保護者層の利用が多いインスタグラムでの発信も開始した。さらに、再開した園庭開放も含め、子育て支援事業フォーキッズを企画実施し、当該保護者層の来園機会増大を図った。

### 3. 課題について

前述のとおり、2022年度に予定していた取り組みについては計画どおり実施でき、中期経営戦略は概ね順調に進捗している。しかしながら、園児募集に関しては、政府予測をはるかに上回る少子化の進行により、園を取り巻く環境が厳しさを増している。このため、2023年度以降、追加施策を講じて未就園児保護者層への効果的な情報発信と来園機会の増大に取り組むこととする。

#### 4. 安全管理の取り組み強化について

送迎バスの運用については、従前より複数の教職員のチェックによる置き去り防止策を講じてきたが、より一層の安全を担保するために、登降園時に IC タグを用いたプッシュ通知を送信するサービスを新たに導入するとともに、いち早くバスに取り付ける置き去り防止装置の購入予約を完了した。

また、毎週 1 回、遊具の点検を実施し、不具合箇所の早期発見と修繕などの適切な処置を行い、安全な保育環境の維持に努めたほか、毎月 1 回、火災、地震、Jアラート、不審者侵入などを想定した避難訓練を実施し、実際の避難行動の定着と意識の醸成を図った。

#### 5. 学校評価アンケート結果について

本園では毎年度保護者に対してアンケートを実施している。2022 年度の保護者満足度（保護者推薦度）は 95.8%と前年度に続き高水準を維持することができた。

また、個別の質問項目についても、25 項目中 22 項目について 95%以上の回答者から、3 項目については 90%以上の回答者から、それぞれ肯定的な高い評価をいただくことができた。

アンケートの回答方法をオンラインに移行した 2021 年度は回答率が低下したが、2022 年度は回答を促す案内を工夫したことにより率の上昇が見られた。

#### 6. 学校関係者評価委員会からの意見について

学校関係者評価委員会からいただいた意見は以下のとおりである。なお、改善が必要な内容についてはすでに対応している。

- ①新しい取り組みであるドキュメンテーションとポートフォリオは、子どもの成長を感じることができ非常にありがたい。一方で保育教諭の負担増になっていないかが心配である。
- ②預かり保育について、利用者が増えていて予約が取りにくくなっていると聞いた。
- ③生活発表会など、子どもの育ちを第一に考える進め方に感心した。
- ④手洗い場でお湯が出れば手洗いがよりきっちりできると思う。
- ⑤文字や数字について幼稚園ではほどほどの取り組みで十分だと思う。

#### 7. 総括

本園では、変化が激しく先行きが見通しにくいこれからの時代を、主体的に自信を持って生きていけるよう、就学前の子どもたちの育ちを援助している。2022 年度においても、日常保育やさまざまな行事を通じて、子どもたちの興味や関心を広げ、子どもたちが自分の頭で考え、決めて、最後までやり遂げる機会を多く設け、自信や自己肯定感を育む教育保育に取り組むことができた。

教育保育のさらなる質的向上を目指し、2022 年度は、(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が推進する、「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム」ECEQ® (Early Childhood Education Quality System) に取り組んだ。公開保育を含む 5 つのステップを通じ、本園の強みや課題を教職員で共有し、外部からのフィードバックを保育実践に生かすことができた。

以上